

平成20年4月15日  
受信環境クリーン中央協議会

## 電波障害防止に関する功労者の表彰について

— 個人8件、団体2件に対し —

受信環境クリーン中央協議会（会長：岡井 元 財団法人電気通信振興会理事長）は、電波障害防止に関し、顕著な功労のあった次の個人及び団体に対して表彰を行うこととしました。

なお、表彰式は、来る4月17日（木）午後5時15分から霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館「望星の間」で行う予定です。

【個人】

（順不同、敬称略）

氏名	職業	実績の概要
こばやし まさる 小林 勝	元・NHK職員 前・(社)電波産業会	長年にわたり放送の送信・受信技術業務に従事され、テレビ・ラジオの放送受信環境の維持改善に尽力された。とりわけ、昭和50年代以降の急激な都市化による都市雑音の増加に伴って悪化した受信環境の改善に向けて、中継局の送信対策や地域に合った受信アンテナ設備の普及に取り組み、放送受信環境の維持改善に大きく寄与した。さらに、NHK退職後も電力系の団体で電波障害改善指導にあたり、送配電線などからの雑音障害の未然防止に努められ、その後、社団法人電波産業会で放送のデジタル化に向けたアナログ周波数変更対策の推進にも尽力し、関係業界の指導役として多大な貢献を果たした。
おおつか けんせい 大塚 健生	東芝テクノネットワーク(株)	昭和45年に東芝家庭電器サービス(株)(現東芝テクノネットワーク(株))に入社以来テレビ電波障害解消関係に携わる。(社)日本CATV技術協会関東支部調査部会幹事となって以来10年余にわたって建造物障害によるテレビ電波障害に係る調査要領の策定等に努めた。また、地上デジタル放送の開始に伴って建造物障害調査に関する研究委員会等地上デジタル放送に関する各種委員会委員として地上デジタル放送の開始に向けた建造物障害予測調査要領の作成に携わるなど、一貫してテレビ電波障害解消業務の調査・研究、普及に努めるとともに技術の向上に多大な貢献をした。
きたむら はじめ 北村 肇	東海旅客鉄道(株) 静岡支社工務部 電気課	旧国鉄入社以来一貫して通信関係業務に従事し、列車乗務員(運転士・車掌)と列車運行管理を担う輸送指令員が使用する列車無線装置、非常時に運転中の列車を緊急停止させるための列車防護無線装置及びその他多数の無線設備を適切に維持管理するとともに、これら設備の保守を担当する社員及び保守業者に点検・設備に必要な技術指導を的確に行なうことにより電波障害防止に貢献した。また、無線設備を適正に維持更新するための各種免許申請を電波法にのっとり適切に行ない、電波利用の公共性を維持するとともに安定的な受信環境の確保に貢献した。

<p>たぐち しず お 田口 俊生</p>	<p>日本電設工業 (株)情報通信 本部</p>	<p>東北・上越新幹線沿線の地上デジタル放送の受信状況調査及び住民との新たな受信補償計画策定の業務委託及び技術支援要請をJR東日本から受けた日本電設工業(株)の総括作業責任者として、地上デジタル放送の完全移行に対する受信補償計画作成に関して次の具体的対応を行なった。①地上デジタル放送の受信状況の調査に関しては、端子電圧、等価C/N比等から受信評価できる調査測定システムを確立し、2007年10月までに補償対象世帯である544組合12万7千世帯の受信評価のデータを採取した。②住民との受信補償業務に関しては、通信事業者が補償業務を引き受けてサイマル方式の実現に努め、実際に住民説明会にも積極的に参加し、内容の理解を得る努力と説明者(渉外員)への教育及び指導を行なった。</p> <p>国鉄時代から現在に至るまで新幹線に関わるテレビ受信障害対応を行い、地上デジタル放送完全移行に対する方針の検討にも積極的に努め、住民に対する新たな補償を実現するために地上デジタル放送の調査測定システムの確立と補償内容の検討、渉外活動の実施などその功績は大である。</p>
<p>もり 森 のりかず 章和</p>	<p>前・(社)日本アマチュア無線連盟</p>	<p>昭和57年から平成19年までの27年間にわたり、(社)日本アマチュア無線連盟の電波障害対策の牽引者として、電波障害対応の指導を始め障害原因の特定や対応策等に関する実務をし、連盟として全国統一的に電波障害に取り組むために監査指導体制や技術的な防止対策等の周知・啓蒙活動を行なった。さらに、電波障害中央防止協議会の活動に参画し、企画広報分科会の委員として電波障害に係わる広報活動を行なった。平成9年に同分科会の座長として協議会の名称変更に関わり、現在の組織である「受信環境クリーン中央協議会」の実現に寄与した。</p>
<p>かたの まさとし 片野 正敏</p>	<p>元・NHK職員 前・(株)NHK アイテック</p>	<p>NHK在職中は、長年にわたり放送の受信改善業務に関わり、良好受信に向けた受信環境の維持・改善に貢献した。また、NHK退職後も株式会社NHKアイテックにおいて建造物による受信障害の改善対策などに陣頭指揮をとり受信障害の改善に大きく寄与した。</p>
<p>おがわ あきら 小川 明</p>	<p>名古屋大学大学院工学研究科電子情報学専攻教授</p>	<p>小川明氏は、通算約12年の長きにわたり、東海受信環境クリーン協議会の技術部会長及び会長として、当協議会の運営に尽力するとともに、主に放送の受信障害(ブースタ発振)に関する調査研究及び発振メカニズムの検証に指導的な役割を果たすなど、電波技術の開発・普及に著しく貢献した。</p>
<p>そのだ けんいちろう 其田 建一郎</p>	<p>松山市立南中学校 校長</p>	<p>「受信環境クリーン図案コンクール」の審査委員を第31回(平成10年度)から40回(平成19年度)まで10年間担当した。特に第36回(平成15年度)からは審査委員長として審査に尽力した。</p>

【団 体】

氏 名	実績の概要
<p>独立行政法人 鉄道建設・ 運輸施設整備支援機構 鉄道 建設本部 東京支社</p>	<p>東京都秋葉原から茨城県つくば市に至る常磐新線（つくばエクスプレス）建設に際し、沿線住民の電波受信環境確保のため、電波障害防止の社会的重要性を深く認識し、建設後の構造物及び列車走行によるテレビ電波受信障害を事前に調査・予測してその対策を実施した。これにより、沿線住民の十分な理解と協力を得て、常磐新線開業後のテレビ受信障害の積極的な解消に努め、電波障害対策の推進に大きく貢献した。</p>
<p>南風原町立南星中学校</p>	<p>「受信環境クリーン図案コンクール」に沢山の作品を応募し、受信環境クリーン中央協議会会長賞及び奨励賞、並びに沖縄受信環境クリーン協議会会長賞及び奨励賞を多数受賞するなど、優れた作品を提出するとともに、美術の授業を通じて電波障害防止に関する知識の普及、周知、啓発に多大な貢献をされた。</p>

<参 考>

受信環境クリーン中央協議会では、本件表彰を昭和34年（1959）から毎年実施しており、今回で50回目となります。

連絡先：受信環境クリーン中央協議会 事務局  
（財団法人電気通信振興会内） 関  
（電話03-3940-3955）